◎◎◎佳作

最大の賛辞と感謝の気持ち

河野知子
福岡県・四二・施設職員

あんなにも待ち望んでいた赤ちゃんを、ようやく抱けると知った時のあなたの嬉しそうな顔が、高年齢出産の私の不安を吹き消してくれたのでした。それから、定期検診には必ず付添い、あれこれとお医者さんに質問し、看護婦さんには顔と名前をすぐに覚えてもらい、受付の窓口は顔パスだと笑って言ったものでした。町主催の母親学級にも参加しましたね。保健婦さんが「母親学級始まって以来の、初めての父親参加ですよ」と、目をまるくしてパンフレットを渡してくれました。本を呼んだり、ビデオを見たり、「こんなに勉強したことは、かつてない」と、おどけたものでした。私が貧血だと検査結果が出れば、ほうれんそうを山ほど買い、焼き鳥屋さんでレバーをたくさん焼いてもらい、あたふたと駆けまわってくれました。

大みそかに、赤ちゃんはうぶ声をあげ、除夜の鐘は親子三人で聞きました。

退院の日、大学病院で診てもらうようにと、紹介状を受け取った時のショックは今も夢に出て来て、目がさめます。

大学病院で生まれつき心臓病だと診察の結果を聞いた時、あなたは母親の私をさしおいて先に気絶したのでした。それでも、立ち直るのも早く、めそめそしている私にかわって、赤ちゃんに注意深くミルクを与え、「あくびをしたよ。もう退屈しているのかな」と、陽気にふるまってくれたものでした。赤ちゃんは手術を受けて、術後の経過もよく、私はやっと愁眉(しゅうび)をひらくことができました。あの、辛い日々を支えてくれたのは、あなたの明るい笑顔と、決して上等とは言えないジョークの連発でした。私が、ときどき、「脳天気なんだから、まったく、もう」と言うのは、あなたへの最大の賛辞と感謝の気持ちです。赤ちゃんの規則正しい心臓の音と、あなたのいびきを聞きながら、初めて神様に祈りをささげた日を思いだします。